

佳作 (子どもの部)

「やさしい心の大切さ」

荒川区立汐入東小学校三年

坂寄 絢霞

やなぎ田先生、はじめまして。わたしは、「かばんうりのガラゴ」という本を読みました。ガラゴは、カバンを売るしかのような動物で、次々と来るお客さんにたくさんのかばんを売っています。作者の、島田ゆかさんの絵がとてもかわいいのでこの本が大好きです。

わたしが一番好きな場面は、夜になって、ガラゴがねむろうとしていた時に、うさぎのお客さんが何びきも来た場面です。わたしは、とてもねむいの

にお客さんのきぼうどおりにカバンを売ってくれたガラゴが、とてもやさしくて、見習いたいと思いました。ガラゴがカバンを売ると、かならず買った動物が何かをくれるので、少し「つるのおんがえし」のお話にていけると感じ、この本がもっとおもしろく思えました。

わたしがこの本で学んだ事は、二つあります。一つ目は、商売の大切さとありがたさです。商売をするのは大へんだけど、その分、買った人がよることでえ顔になるので商売はとても大切なんだなど、この本を見て思いました。二つ目は、人にやさしくせつする気持ちです。この本に出てくるたくさんの動物のお客さんに、一どもことわらずに、お客さんののぞみどおりにかばんを売ってくれるガラゴがとてもやさしいと思ったので、わたしもまねし

たいと思います。この本を読んだ後に、わたしもガラゴのようなやさしい心を持つとう、と心にちかい、それから気をつけるようにしました。そうしたら、とても気持ちがよかったので、やっぱりやさしさは大切だなと思いました。

これからも、人にやさしくする心を大切にしていききたいです。